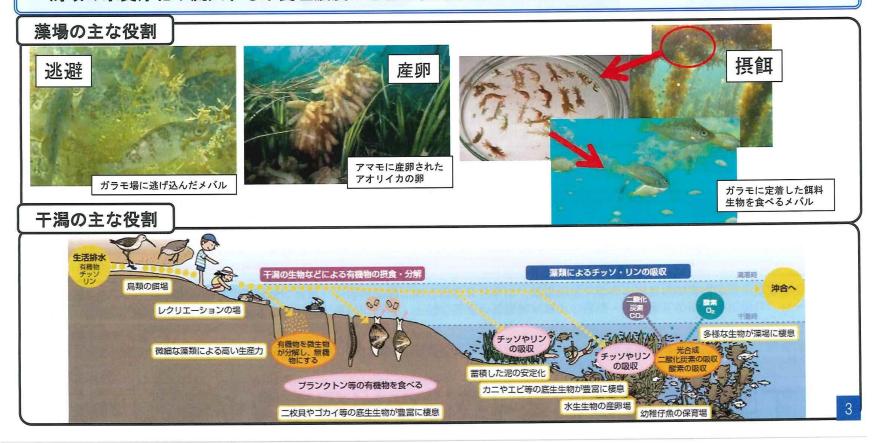
藻場・干潟の機能

- ▶ 藻場やサンゴ礁は、産卵場所や幼稚仔魚等の隠れ家、水産動物にとっての餌場であるとともに、水中の二酸化炭素を吸収して酸素を供給するなど、水産資源の増殖に大きな役割を有している。
- ▶ 干潟は、二枚貝、甲殻類、ゴカイ等の底生生物の生息の場であるとともに、これら生物の働きによる 海域の水質浄化や流入する栄養塩濃度の急激な変動を抑える緩衝地帯としての役割を有している。



2021年4月8日 参議院環境委員会 日本共産党 山下芳生 出典 中央環境審議会 水環境部会 第18回瀬戸内海環境保全小委員会 (令和元年10月18日) 資料 農林水産省の施策 農林水産省 より抜粋

表 23 藻場・干潟の機能

	藻 場	干 潟
①水質の浄化 ・ 環境保全機能 ・ 生態系保全機能	・窒素、燐の吸収による富栄養化の防止・流れ藻による沖合への栄養塩類の拡散・透明度の増加と濁り防止・酸素の供給	・二枚貝等による有機物の除去 ・窒素、燐の吸収による富栄養化の 防止 ・バクテリアによる窒素の除去
②生物多様性の維持	・多様な生物種の保全・産卵場の提供・幼稚仔の育成場の提供・流れ藻による産卵・育成場の提供・希少生物への餌の提供	・多様な生物種の保全・鳥類の餌場、休み場の提供・幼稚仔の育成場の提供
③炭素の貯留	・海草藻類の光合成による吸収	・底生生物や堆積による固定
④浸食抑制による海岸保全	・波浪の抑制や底質の安定	•消波効果
⑤親水性や環境学習の場	・ダイビング、生物観察等	•潮干狩り、散策、野鳥観察等

出典)「藻場・干潟等の現状と問題点等」(第1回環境・生態系保全活動支援制度検討会資料、水産庁、平成20年 5月)を一部改変

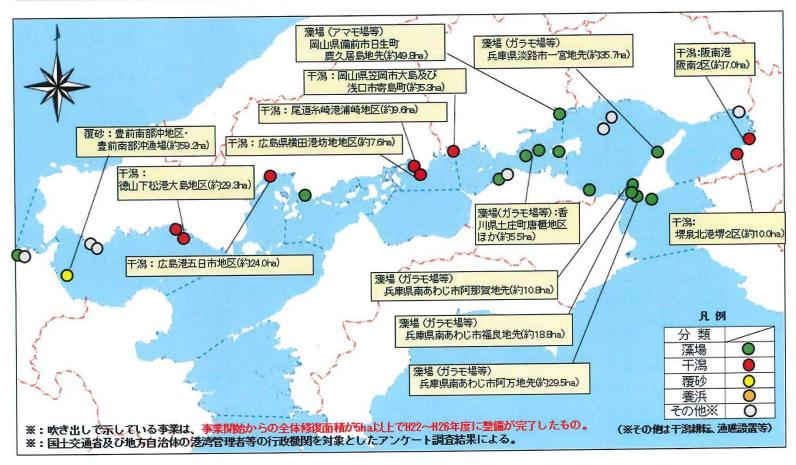
> 2021年4月8日 参議院環境委員会 日本共産党 山下芳生 出典 中央環境審議会 水環境部会 総量削減専門委員会(9次)(第6回)令和3年2月1日 資料 「参考資料 第9次水質総量削減の在り方について (総量削減専門委員会報告案) 図表」より抜粋

瀬戸内海の環境修復の取組状況と主要事例 干潟・アマモ場・ガラモ場等の事業実施箇所(平成17~21年度に事業完了) 藻場(ガラモ場等): 兵庫県洲本市五色町地先(約32.5ha) 藻場(ガラモ場等): 兵庫県姫路市家島町地先ほか(約34.0ha 藻場(ガラモ場等): 大阪港阪南地区Iまか(約24.0ha) 藻場(ガラモ場等): 兵庫県南あわじ市阿那賀地先(約11.3ha) 干潟: 岩国港室の木地区(約9.5ha) その他(海砂利採取跡修復): 岡山県味野湾(約16.6ha) 覆砂: 苅田湾(約75.0ha) 覆砂: 香川県さぬき市津田湾(約13.0ha) 藻場(ガラモ場等): 和歌山市雑智崎ほか(約5.0ha) 藻場(ガラモ場等): 徳島県 播磨灘南部海域(約5.2ha) 凡例 覆砂: 豊前中部沖地区(約53.9ha) 養浜: 完了 分類 徳島県小松島港沖洲地区(約7.0ha) 莲場 藻場(ガラモ場等): 干渴 0 兵庫県南あわじ市灘吉野地先(約5.9ha) 着砂 春浜 0 その他× ※:吹き出しで示している事業は、事業開始からの全体修復面積が5ha以上でH17~H21年度に整備が完了したもの。 ※:国土交通省及び地方自治体の港湾管理者等の行政機関を対象としたアンケート調査結果による。 (※その他は干潟耕耘、漁礁設置等)

2021年4月8日 参議院環境委員会 日本共産党 山下芳生 出典 ホームページ「瀬戸内海の環境データベース」(国土交通省中国地方整備局港湾航空部が設置運営)より抜粋

瀬戸内海の環境修復の取組状況と主要事例

干潟・アマモ場・ガラモ場等の事業実施箇所(平成22~平成26年度に事業完了)



2021年4月8日 参議院環境委員会 日本共産党 山下芳生 出典 ホームページ「瀬戸内海の環境データベース」(国土交通省中国地方整備局港湾航空部が設置運営)より抜粋